

令和7年度 大阪市立天満中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○3年生全国学力・学習状況調査結果

<国語> 正答率は大阪府平均より3ポイント上回り、全国平均を0.7ポイント上回った。評価の観点では、「知識・技能」の正答率が、全国平均と大阪府平均よりも高くなった。また、学習指導要領の内容では、「思考力、判断力、表現力等」の項目Bの正答率が高く、正答率が大阪府平均から3.6ポイント、全国平均から1.3ポイント上回った。

<数学> 正答率は、大阪府平均を6ポイント、全国平均を4.7ポイント上回っている。評価の観点では、「思考・判断・表現」の正答率が、大阪府平均から8.4ポイント高く、全国平均から6.7ポイント高くなった。問題形式の記述式の正答率が大阪府平均より7.1ポイント高く、全国平均より5.5ポイント高くなった。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<成果>

5教科の平均点は大阪府平均53.7点と比較し、本校平均57.3点と3.6ポイント高くなった。特に、英語の平均が大阪府平均より4.9ポイント高く、次に数学の平均も4.4ポイント高くなっている。英語と数学とも平均無回答率も大阪府平均より低い点数となっていることが良い結果につながっていると考えられる。

<課題>

国語の無回答率が大阪市平均より高い点数となっている。平均点は、大阪府・大阪市平均より良い結果になっているが、観点別平均点の「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」が大阪府平均より少し低くなっているのみで、その他の観点別平均点の点数は高くなっている。

全教科で基礎的な知識や技能を習得することができ、それらを活用して課題を解決するための能力を育むことができている。これを次の学年が維持していくことが必要となる。

○大阪市英語力調査(GTEC)

<成果>

全ての技能で大阪市の平均を上回っている。特に「書くこと」【ライティング】では大阪市平均より20.3ポイント高くなり英語力の向上が伺える。

<課題>

学年が変わったとしても高い英語力を維持するための創意工夫が必要である。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

<成果>

体力合計点で男女とも全国・大阪市よりも高くなった。特に女子の体力合計点が全国よりも9.95ポイント高くなった。

<課題>

ここ数年体力合計点が全国・大阪市よりも高い値となっているが、年度末校内調査における、「運動(体を動かすこと)やスポーツをすることは好きである」に対して、「とても思う」と回答する生徒の割合が54%となり目標の65%に届いていない。運動(スポーツ)に対する意識が良い方向になるようさらに取組を深めていく必要がある。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)・中学生チャレンジテストPlus(1年生)

<成果>

1年生チャレンジテストでは、3教科とも大阪府・大阪市平均を大きく上回ることができたが、チャレンジテストPlusでは、大阪市平均を上回ることができなかった。

2年生チャレンジテストでは、数学のみが大阪市と大阪府平均を上回ることができなかった。

<課題>

1年生では、1年生チャレンジテストPlusで平均無解答率が大阪市よりも高くなっており課題が残る。2年生でも、2年生チャレンジテスト数学の平均無解答率が大阪市・大阪府平均よりも高くなっており、課題が残る。

【今後に向けて】

今年度は「宿題以外にも家庭学習をしている」と答えた生徒の割合が73.2%と前年度より高くなったが、来年度からも引き続き生徒が主体的に家庭学習を取り組み、生徒の肯定的な回答割合が高い割合を維持できるよう工夫していくことが必要である。

今後もICTを活用した自学支援や家庭との連携を強化し、学びへの意欲を高めていく必要がある。GTECの結果では、3年生において、英検3級程度以上の割合が83%と高く、来年度以降も引き続き高い割合が続くよう取組んでいく必要がある。

また、話し合い活動を通じた思考の深まりについては一定の成果が見られたものの、学びを自ら広げる力や主体的な学習姿勢には個人差があり、課題が残る。来年度に向けて、自由進度学習をはじめとする個別最適な学びと協働的な学びを通して授業改善や思考力・判断力・表現力を育成するとともに、引き続き運動習慣の定着にも努めていく必要がある。